

中学校  
の部

# 地球に恒久平和を

金沢市野田中学校三年 山下 槟一朗

僕は地球から戦争をなくし恒久平和をもたらすべきだと考える。

1950年から53年に起きた朝鮮戦争では約三百万人が死亡し、数多くの人間が負傷した。休戦協定により戦闘は終結したが、和平協定は結ばれていない。

朝鮮戦争を含め、地球ではいくつもの戦争が起こっている。そしてその度に人間は兵器を使い、殺し合いをしてき

た。その兵器のなかには地雷がある。地雷は被害者を殺すためではなく、大きな傷を負わせるように作られている。それは地雷が被害者とその看護者を戦場から遠ざけること目的とし使われるためだ。AFP通信の調べでは、現在世界各地に埋められている対人地雷は一億を越えるという。そのなかにはかつて日本が埋めた物もある。

そして地雷によって年間二万五千人以上が被害にあっている。年間二万五千人以上が被害にあっている。毎日命や体を計算すると二十分に一人の命、目、手足などが奪われている。たつた二十分だ。僕たちが授業を受けたり、友達と話したりするだけで過ぎてい

く二十分の間に、一人の人間の笑顔が失われている。さらには地雷事故にあつた人の八割が地雷があるかもしれないことを知つてながら、その日の生活をしていくため、薪をとつたり、農作業をしに地雷源へ入らざるをえなかつたと答えている。毎日、命や体を失う危険と隣り合わせの生活を送っているのだ。今も眠つている地雷のなかには、第一次、第二次世界大戦で使用されたものが多くある。終わつたはずの戦争が今も人の命を奪い続けている。日本もかつて戦争を経験している。最終的に核爆弾の投下により、日本が降伏して戦争が終結した。核爆弾による被害はすさまじく、今も語りつがれている。被害のすさま

じさに目を背けてしまうかもしれない。しかし、過去の惨劇をよく知り、二度とその惨劇をくり返さないように教訓を得る必要がある。そして現

在起きている宗教や民族の違いによる戦争の種や、かつての戦争が残した兵器による被害にも目を向けなければならぬ。世界中の人々がかつての戦争の被害や戦争へ目を向け、戦争がいかに無駄で人の幸せを奪つてしまうものか理解すれば、戦争が起きることはないはずだ。また、インターネットが普及し、密接につながりつつある世界のなかで人々が情報を交換し合い、互いに分かり合おうと努力をし、世界中の人々が争うことなく毎日笑つて過ごせるようになると信じたい。

## 世界連邦推進小中学生 ポスター・作文コンクールの 特賞作品紹介

小学校  
の部

### 世界が笑顔に

金沢市西小学校六年 島田 彩花

世界が笑顔に

金沢市西小学校六年 島田 彩花

わたしは、五年生の時にアートマイルという勉強を総合でしました。アートマイルとは大きな布などに二つの国の人達が半分ずつ絵を描くという活動のことです。わたし達、西小学校は、ザンビアの子ども達と絵を描くことになりました。わたし達は、最初、ザンビアがどんな国で、どこにあるのかがまったくわかりませんでした。わからないう人がほとんどだったのでも、

わたしは、五年生の時にアートマイルという勉強を総合でしました。アートマイルとは大きな布などに二つの国の人達が半分ずつ絵を描くことになります。わたし達は、最初、ザンビアがどんな国で、どこにあるのかがまったくわからなかったので、

ばかりではありませんでした。アフリカの子ども達の中には、お金がなく働くために学校へ行けない子ども達がいるということを知りました。日本で

ばかりではありませんでした。アフリカの子ども達の中には、お金がなく働くために学校へ行けない子ども達がいるということを知りました。日本で

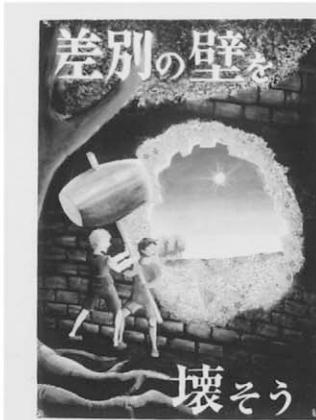
ばかりではありませんでした。きつと、みんながそう思えるようになれば、世界が笑顔になれると思いま

と外国人の人と仲良くして、つながつていいきたいという気持ちを持つていてください。みんなで仲良くつながりたいといふ気持ちを持つてば、戦争がないなり、世界が平和になり、思いやりを持つてようになり、たくさんの人々が笑顔になる、と考えるようになりました。そういうことを願い、行動していきます。



写真はポスターの特賞作品

中学校の部 古谷たまみ

(金沢市泉野4年)  
小学校の部 前田 珠奈特賞  
古谷たまみ  
金沢市立泉野中学校3年

わたしは、初めて外国の方と交流をしました。このザンビアの子ども達との交流で、日本がめぐまれている日本の子ども達が、学

べて感りました。この交流を生かして将来、大人になつてもずっと、日本がめぐまれていています。このことを改めることで、それができることがあります。これができないことを、

（金沢市泉野4年）